

社会 第4学年 昔から今へと続くまちづくり

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。教育出版の年間指導計画にある「昔から今へと続くまちづくり」に対応した独自案。教材本文・挿絵・問題文は転載していない。実施月は公式資料から確定できないため、学校の年間計画で確認する。

この単元で子どもが最後にできるようになること

本案で見るのは、児童が「水を引く事業は、どんな困難を越えて地域の生活を変えたのだろうか」に対し、資料の事実と考えを区別して答えられるかである。地域の開発に尽くした先人は苦心や努力を重ね、当時の生活の向上に貢献したというまとめを暗唱できるだけでは、本時の目標に届いたとは判断しない。水路ができる前後の土地利用図、地形図、事業の経過を示す資料を比べる。水の通る経路と高低差、工事や水の配分に関わった人々を調べ、人物の努力を地域の課題と結び付ける。根拠の指し示し方や説明の修正を見ることで、教師は次に何を確かめればよいかを判断できる。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第4学年〕(4)	(4) 県内の伝統や文化、先人の働きについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
〔第4学年〕(4)ア(イ)	(イ) 地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解すること。
〔第4学年〕(4)ア(ウ)	(ウ) 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。
〔第4学年〕(4)イ(イ)	(イ) 当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を捉え、先人の働きを考え、表現すること。

単元の目標

地域の開発に尽くした先人は苦心や努力を重ね、当時の生活の向上に貢献したことを理解し、地図・写真・統計・説明資料と調査記録を扱う技能を身に付ける。「水を引く事業は、どんな困難を越えて地域の生活を変えたのだろうか」を追究し、根拠を基に考えを表す。自分の記録を見直し、分からないことを確かめながら学習に取り組む。((4))

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地域の開発に尽くした先人は苦心や努力を重ね、当時の生活の向上に貢献したことを理解している。 ②地図・写真・統計・説明資料と調査記録について、対象、条件や時期、調べて分かったことを区別して記録している。	①「水を引く事業は、どんな困難を越えて地域の生活を変えたのだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。	①昔から今へと続くまちづくりの学習で生じた疑問について、自分の記録や友達の考えを基に調べ方や説明を見直し、解決しようとしている。

単元の流れ

教育出版の公式年間指導計画の該当見出しに全13時間と記載。小単元外の大単元導入は加算していない。各次への配分と本時の位置は本資料の提案。学校の年間計画で調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～3	○水路以前の土地と暮らしを調べる。	知①・知②（記録・活動の観察）
第2次	4～5	○事業を始めた理由を資料から読む。	知①・知②（記録・活動の観察）
第3次	6～7	○地形と水路の経路を地図で確かめる。	知①・知②（記録・活動の観察）
第4次	8～9	○工事の困難と人々の協力を整理する。	知①・知②（記録・活動の観察）
第5次	10～11 （本時を含む）	○事業後の生活と維持管理を調べる。 ○水路ができる前後の土地利用図、地形図、事業の経過を示す資料を比べる。水の通る経路と高低差、工事や水の配分に関わった人々を調べ、人物の努力を地域の課題と結び付ける。	思①（個人の説明・記録）
第6次	12～13	○先人の働きの意味を説明する。	態①（記録の見直し・振り返り）



本時の案

本時の目標：「水を引く事業は、どんな困難を越えて地域の生活を変えたのだろうか」について、資料の事実を示しながら自分の考えとその理由を説明できる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	○前時までの記録から「水路以前の土地と暮らしを調べる」ときの疑問を取り出す。 ○「水を引く事業は、どんな困難を越えて地域の生活を変えたのだろうか」 【めあて】調べた事実を使い、自分の考えと理由を説明しよう。 ○一人で予想と理由を書き、調べたい点を確認める。 〈予想される児童の反応〉 ・地域の開発に尽くした先人は苦心や努力を重ね、当時の生活の向上に貢献したのか確かめたい。 ・前の記録と比べると違いが見つかりそう。	・答えを先に示さず、児童がどの記録を根拠にしたかを尋ねる。 ・水路や工事施設へ無断で立ち入らない。教材の地域と三重の地域的事実を混同せず、変更する場合は自治体史料で確かめる
展開 （ 分）	○前時までの調査記録を使い、本時は中心の問いに関係する資料を比較する。次に挙げる調査を本時だけで全て実施せず、追加で調べたいことは計画に残す。 ○水路ができる前後の土地利用図、地形図、事業の経過を示す資料を比べる。水の通る経路と高低差、工事や水の配分に関わった人々を調べ、人物の努力を地域の課題と結び付ける。 ○「どの資料の事実から、そう考えましたか」 ○自分の説明を相手に示し、根拠が同じか違うかを比較する。 ○説明できない記録があれば条件や資料の読み方を確認め直す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じだと思ったが、比べるところをそろえると違いがある。 ・この記録だけではまだ決められない。 ・工事の困難と人々の協力を整理することで、理由を確認めたい。	・偉い人が一人で作ったというまとめには、協力した人々、技術、資金、工事後の維持管理を調べ直す。現在の便利さからだけでなく当時の水不足や生活を資料で捉える ・結果に合わない意見も記録へ戻る材料として取り上げ、発言した児童を責めない。 ・比較が難しい児童には記録の対応する箇所を指し示し、まず事実を口頭で説明させる。 ◎思①「水を引く事業は、どんな困難を越えて地域の生活を変えたのだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。（個人の記録と説明。交流前後の変更理由を含めて見る。）

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （ 分）	○本時の問いへの答えを、根拠となる資料の事実とともに書く。 【まとめ】地域の開発に尽くした先人は苦心や努力を重ね、当時の生活の向上に貢献した。 ○最初の考えから変わったことと、まだ調べたいことを記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・考えが変わったのは、記録を比べたときに違いを見付けたから。 ・まだ確かめていない条件が残った。	・まとめは確認した資料の事実を根拠に書く。資料によって見方が分かれる場合は、作成時期・立場・対象を確かめ、未確認の点を残す。 ・振り返りで分かった支援の必要な点は次時の活動に反映する。 ◎知①（まとめの説明）／態①（記録を見直す過程。発言回数や文章量だけで判断しない。）

板書の構造

上段に「昔から今へと続くまちづくり」と本時の問い「水を引く事業は、どんな困難を越えて地域の生活を変えたのだろうか」。左側に予想とその理由、中央に実際に調べた事実の記録、右側に事実から考えた説明を置く。中央は条件・時期・対象が分かる見出しにし、比較する記録を同じ高さに並べる。工事の困難と人々の協力を整理する際に用いた記録を残し、根拠と説明を線で結ぶ。下段には確かめられたことと、まだ残る問いを分けて置く。発言の多い子の説明だけで仕上げず、個人の記録の違いを残す。

つまづきやすい所と手当て

偉い人が一人で作ったというまとめには、協力した人々、技術、資金、工事後の維持管理を調べ直す。現在の便利さからだけでなく当時の水不足や生活を資料で捉える

準備するのは、学級で使う実物や資料と、対象・条件・時期を対応させて残せる記録用紙である。教師は事前に資料の出典や器具の働きを確かめ、児童に渡す記録と教師の説明を区別する。水路や工事施設へ無断で立ち入らない。教材の地域と三重の地域の事実を混同せず、変更する場合は自治体史料で確かめる。本時の評価で説明と根拠が結び付かない場合は、言葉を追加して教え込む前に、比べる対象がそろっているかを見直す。口頭では説明できるが記述が難しい場合は、図と指差しも証拠として残す。

プリントの案

昔から今へと続くまちづくりの問いと記録

上段は「調べたいこと」と「最初の考え・理由」。中央は対象、条件・時期、分かった事実、確かめた方法の欄。水路ができる前後の土地利用図、地形図、事業の経過を示す資料を比べる。水の通る経路と高低差、工事や水の配分に関わった人々を調べ、人物の努力を地域の課題と結び付ける。下段に事実から考えた説明と残った疑問を書く。教材本文・写真は印刷せず、利用できる実物や公的資料の出典を書き入れる。

説明を確かめ直すカード

問い「水を引く事業は、どんな困難を越えて地域の生活を変えたのだろうか」への自分の答え、根拠の記録、友達の説明との共通点・相違点、修正した箇所と理由の欄を設ける。修正しない場合も根拠を確認した理由を書く。文字を書く代わりに図や口頭説明の記録も使える。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）。本文は取得済みの文部科学省表V1.2と照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校社会。評価の観点と記録を用いる考え方を参照。事例の文章は転載していない。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_shakai.pdf）／教育出版年間指導計画。単元名・配当時間・掲載時期の出典。（https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/textbook/shou/shakai/files/r6shakai4_nenkeihyouka_2504.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

